

①【発地】三石神社 MAP E-3

祭神／豊受姫大神(とうけひめのおおかみ:食物の神)稲荷神社、火防の神も祀る。創建時期は不明。例祭は5月27日だった。「時の鐘」は江戸時代(徳川3代将軍家光、寛永年間)に初めて鋳られた。明け六つ、暮れ六つを告げた。太平洋戦争の時、供出し、戦後、市民により再建された。除夜の鐘として使われていた。



②阿闍梨(あじり)小路・市子石 MAP D-3

阿闍梨/密教の師範である高僧、または密教の秘法を伝授する師。天台宗、真言宗の僧の位。真言宗の巨刹があり、その僧坊があった。または阿闍梨屋敷があった。蓮行寺(慶長5年再建;現伊豆国分寺)の開山慈眼阿闍梨日義上人に因んだ。市子石…霊や死霊の意中を述べる巫女がこの石に言寄せた。



③木町観音堂 MAP C-3

西国三十三所観音像と言成地蔵尊が祀られている。弘法大師の西国三十三所霊場へ行けない人がここにお参りした。お堂は福聚山慈雲院といい、救世観音を祀っている。言成地蔵尊。小菊の事件/享亨4(1687)年。この地蔵尊は正徳2(1712)年に造られた石仏。



⑥千貫樋 MAP A-5

伊豆の国小浜池から駿河の国玉川・伏見・八幡・長沢・柿田の五ヶ村の田地を灌漑するために造られた樋。当初の木の樋は、大正12年の関東大震災後、鉄筋コンクリートに掛け替えられた。



葛飾北斎画 東海道五十三次沼津に描かれている

⑤秋葉神社 MAP A-5

祭神/火産霊神(ほむすびのかみ)火防の神。例祭/5月7日。樹齢250年のむく(市の保存樹)。西見付/徳川6代将軍家宣の代、正徳元年(1711)広小路の土手を小さくし、土を運んで茅町に食い違い土手を築造した。明治初年に取り壊され、道路改修が行われた。



④林光寺 MAP B-4

浄土宗/本山は知恩院。山号/摂取山。本尊/阿彌陀如来。開山/最上人は武田信玄の5男信景。33所観音像/軒縁の彫刻は伊豆長八の孫弟子の作。吉原守拙、呼我の墓/吉原父子は郷土の子弟教育に尽力した。栗原忠二の墓/三島生まれ(久保の旧家栗原宗兵衛の次男)の世界的な画家。三枝素水の墓/名は敬三、素水は読み書きそろばん式の簡単な実用寺子屋を教えた。唯念碑/南無阿彌陀仏の名号碑は数甲豆相に1,000余建立されている。



⑦善教寺 MAP A-4

浄土真宗、本山は西本願寺。本尊/阿彌陀如来。開山/釈祐念。境河山浄諦院善教寺。(寺号の説明のあと)三島宿の最西端にあるので上の寺(京都に近い)とも言われ、かつて無縁仏などを供養した灰塚があった。幼児教育も活発で白道保育園を併設している。



⑧栄町公園 MAP A-4

かつて林光寺および個人の所有地だった土地を、明治時代半ばに三島町が買収し、大正時代に旅行死者の埋葬地とし、昭和の初期から一般の墓地として使用していた。昭和50年代半ばに、境川護岸工事と墓所の一部を移転し、公園とした公園部分は1,280㎡、今は防災広場や老人会の運動場として使われている。



⑨若宮神社 MAP B-1

御祭神は誉田別命(ほんだわけのみこと)だと言われています。西11町の氏神様で古くから「八幡さま」と呼ばれ、5月後半の土日がお祭りです。5月のお祭りには子供しゃぎや露店が並び、神輿渡御もあって賑わいます。境内にはヒイラギの古木、マキの巨木などがあり、天神社、山神社も祀られています。



⑫【着地】蓮馨寺 MAP E-2

山号/君沢山。浄土宗。本尊阿彌陀如来(足利時代作)。子安地蔵/安産祈願に柄杓をお供えする。日限地蔵/一聖徳太子作という。60年に一度開帳したが、その都度大火があり、以後開帳しないことになったという。袈裟がけに割れ目があるという。聖徳太子堂/職人組合が大正15年に建立。最近、聖徳太子像を建てた。芭蕉の墓/いさどもに穂麦くらはん草枕 はせを(了)



⑪本覚寺 MAP D-1

山号/常在山。日蓮宗。応永31年(1424)、日蓮宗日出上人によって創建された。2代日朝上人は眼病守護の聖人として、地元では「お日朝さん」と呼ばれ親しまれている。本堂に小松宮さま自筆の「関八州総導師」の額がある。お地蔵さん(蓮馨寺)の23日、お日朝さんの24日の縁日が名高く、最近復活の話がある。また、漢字塾止館を開いた並河誠所の墓がある。



⑩伊豆国分寺 MAP D-2

寺号/妙法華山伊豆国分寺。宗派/日蓮宗。天平年間(729~748)、聖武天皇の詔により建立された。江戸時代初期(慶長年間)、井手志摩守正次により日蓮宗宝樹山蓮行寺と改称し、七重の塔の礎石(8個)は昭和31(1956)年に国史跡に指定された。



広小路から境川まで

一般にこの地域を西町と言います。この地は早い時期に国分寺、国分尼寺などが建てられて、広大な面積を占めたことや、良好な耕地があったこと、その後三島は東方の大都市に栄えたことなどが重なり、比較的町並みの発展が遅くなりました。

天正十八年(一五九〇)小田原攻撃が終わり、関東に移封された徳川家康は翌年、箱根越えは三島路を使うことを決めました。その頃の道は広小路から西へは、駅前からV字形に分かれている限道の中間にあつた細い道(消防西分遣所跡)西本町三三七北隣・地図C-3)を通り、林光寺・善教寺を横断して千貫樋北側底地を通って清水町新宿観音堂附近へ出る道だったと言います。この道は狭いので、慶長六年(一六〇二)家康が駅制を定めてから道筋を改め、その後東海道となった旧電車を開きました。そして街道治いに住家の移転を命じました。三島の新宿(茶町・木町)も善教寺も、清水町東海道沿いの村々(新宿、伏見、八幡、長沢など)も大体慶長七(一六〇二)年に移り住んだものです。

その頃西町は六反田、新宿、茅町、蓮行寺町の四町でしたが、宿場の伝馬役は課されませんでした。寛永一五年(一六三八)三代将軍家光の代に伝馬役の常備が一〇〇人一〇〇匹に増加されたとき、従来四町(伝馬、久保、小中、大)に中島に加えて六反田町と新宿町に賦役され、それから二、六年後の寛永四年(一六六四)四代将軍家綱の代に伝馬役は三島宿全町負担となりました。

新宿町ができて一五五年の後の宝暦七年(一七五七)、一〇代将軍家治の代)九月、一家数も増え、納まりが悪くなったので適正規模にするため、中の石橋(西本町二番と三番、八番と二番の間)を境に東を茶町、西を木町として分離しました。(現在の西本町になったのは昭和四〇年四月一日の住居表示制度実施からです。)

さて、伊豆箱根鉄道広小路駅前の泉道に西を向いて立つと、道はV字形に分かれます。左側は旧国道一号線で、江戸時代の東海道が六反田・茶町・茅町を通って西見付千貫樋へ続きます。この道路の北側約二〇mを小浜用水が並行して千貫樋へ流れています。この用水路からの分水路が茅町までの間に六つ街道を横断して石橋の間で町を分けていたのです。

●千貫樋

千貫樋は通沼川(宮さんの川)が小浜用水となり、境川の谷を越えて清水町側に渡るのにかけてある樋です。これは往古、水田の水不足に困っていた駿河五か村(玉川、伏見、八幡、長沢、柿田、後に新宿も加わる)に小浜池の水をひくために戦国時代末期(天文二十四(一五五五)年)、伊豆の北条氏から駿河の今川氏に習引き出物として贈られたと言われており、今川、武田、北条の三家が和陸甲相駿三国同盟した友愛の歴史が刻まれていることも窺うことができます。

千貫の名の由来は、建設費用が千貫文であったとか、潤う田地の収穫量が千貫であったとか諸説があります。現在は、栗寿園の小浜池が枯渇し、また土地がほとんどなくなったり、他の方法で水を引いたり…とほとんど用水としての役割はなくなっています。

当初、木の樋であったものが大正十二(一九一三)年九月一日の関東大震災の際、破損し、その後現在のコンクリートに改修されていますが、それもかなり老朽化しています。

この地方の地誌「増訂豆州志稿」によれば大きさは、長さ二十五間(45.5m)、幅一間(1.8m)、深さ一尺五寸(0.45m)です。

古い街道図には必ずと言っていいほど描かれていて、この地を通っていたちんちん電車と共に、地元の人達には懐かしい光景です。